

株主各位

第65回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示情報

目次

■連結計算書類	連結注記表……………	1
■計算書類	個別注記表……………	12

上記事項の内容は、法令及び当社定款第15条に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.yachiyo-ind.co.jp/ir/stock/sokai/>) に掲載することにより、株主の皆様提供しているものであり、監査役及び会計監査人が監査報告を作成するに際して、監査をした対象の一部であります。

八千代工業株式会社

連結注記表

【連結計算書類作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結計算書類の作成基準

連結計算書類は、会社計算規則第120条第1項の規定により、国際会計基準（以下、IFRS）に準拠して作成しております。なお、本連結計算書類は同項後段の規定により、IFRSで求められる開示項目の一部を省略しております。

2. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 23社

(2) 連結子会社の名称

合志技研工業株式会社
株式会社ウエムラテック
株式会社合志テック
八千代工業四日市製作所株式会社
ヤチヨ オブ オンタリオ マニュファクチュアリング インコーポレーテッド
ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド
ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー
イー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド
ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ
ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ
八千代工業（中山）有限公司
八千代工業（武漢）有限公司
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド
サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド
ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド
ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド
ラグナ アソシエ リアルティ インコーポレーテッド
ヤチヨ インダストリー（ユーカー）リミテッド
ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー

当社は、2017年12月18日開催の取締役会において、当社が100%を出資する八千代工業四日市製作所株式会社（以下、四日市製作所）を設立し、当社の完成車事業を吸収分割により四日市製作所に承継させた上で、当社が保有する四日市製作所の全株式を本田工業株式会社へ譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。これにより、当社の連結の範囲に加わっております。

3. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社はありません。なお、ユー ワイ ティー リミテッド（英国）は2018年3月30日に清算が終了したため、関連会社から除外しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①金融商品

金融資産

金融資産は、当社グループが金融商品の契約当事者となった日に認識しております。なお、通常の方法で購入した金融資産は取引日において認識しております。

金融資産は以下の要件を満たす場合には償却原価で測定する金融資産に分類し、それ以外は公正価値で測定する金融資産に分類しております。

- ・契約上のキャッシュ・フローを回収するために資産を保有することを目的とする事業モデルに基づいて、資産を保有している場合
- ・金融資産の契約条件により、元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるキャッシュ・フローが特定の日に生じる場合

公正価値で測定する金融資産について、売買目的保有を除く資本性金融商品は、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類しております。

金融資産は、当初認識時に、純損益を通じて公正価値で測定する場合を除き、公正価値に取引費用を加算した額で測定しております。

金融資産の当初認識後の測定は、その分類に応じて以下のとおり測定しております。

償却原価で測定する金融資産は、当初認識後、実効金利法を用いて測定しております。

公正価値で測定する金融資産は当初認識後、公正価値で測定し、当該変動額を純損益に認識しております。ただし、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品は、当初認識後、公正価値で測定し、当該変動額をその他の包括利益として認識しております。

償却原価で測定される金融資産については、各期末日において減損していることを示す客観的な証拠が存在するかについての評価を行っております。減損していることを示す客観的な証拠には、債務者による支払不履行又は滞納、債務者又は発行企業が破産する兆候、活発な市場の消滅等が含まれております。減損が認識された償却原価で測定される金融資産の帳簿価額は貸倒引当金を通じて減額され、減損損失を純損益に計上しており、将来の回収を現実的に見込めず、すべての担保が実現又は当社グループに移転されたときに、直接減額しております。

金融資産から生じるキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅した場合、又は、金融資産を譲渡しかつ当該金融資産の所有にかかるリスクと経済価値を実質的にすべて移転している場合に、当該金融資産の認識を中止しております。

②棚卸資産

棚卸資産は、取得原価と正味実現可能価額のいずれか低い方の金額で測定しております。棚卸資産の取得原価は、先入先出法に基づいて算定しており、購入原価及び加工費を含んでおります。加工費には固定及び変動製造間接費の適切な配賦額も含んでおります。正味実現可能価額は、通常の事業過程における見積売価から、完成に要する見積原価及び販売に要する見積費用を控除して算定しております。

③有形固定資産

有形固定資産の測定においては原価モデルを採用し、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した価額で表示しております。取得価額には、資産の取得に直接関連する費用、解体・撤去及び資産設置場所の原状回復費用、並びに資産計上の要件を満たす借入費用を含めております。

土地等の償却を行わない資産を除き、各資産はそれぞれの見積耐用年数にわたり定額法で減価償却を行っております。

主な有形固定資産の見積耐用年数は、次のとおりです。

建物及び構築物	3～35年
機械装置及び運搬具	4～16年
工具、器具及び備品	3～11年

減価償却方法、耐用年数及び残存価額は、毎期末日に見直しを行い、必要に応じて改定しております。

④無形資産及びのれん

(イ) 無形資産

無形資産の測定においては原価モデルを採用し、取得原価から償却累計額及び減損損失累計額を控除した価額で表示しております。

個別に取得した無形資産は、当初認識時に取得原価で測定しております。企業結合の一部として取得し、のれんと区別して認識された無形資産は、当初認識時に取得日時点の公正価値で測定しております。

開発活動で発生した費用は、以下のすべての条件を満たしたことを立証できる場合にのみ、資産計上しております。

- ・使用又は売却できるように無形資産を完成させることの技術上の実行可能性
- ・無形資産を完成させ、さらにそれを使用又は売却するという企業の意図
- ・無形資産を使用又は売却できる能力
- ・無形資産が蓋然性の高い将来の経済的便益を創出する方法
- ・無形資産の開発を完成させ、さらにそれを使用又は売却するために必要となる、適切な技術上、財務上及びその他の資源の利用可能性
- ・開発期間中の無形資産に起因する支出を、信頼性をもって測定できる能力

これらの開発資産は、開発活動の終了の後、量産が開始される時点より、当該開発資産が正味のキャッシュ・インフローをもたらすと期待される期間にわたって償却されます。なお、上記の資産計上の要件を満たさない開発費用及び研究活動に関する支出は、発生時に費用処理しております。

各資産はそれぞれの見積耐用年数にわたり定額法で償却を行っております。

主な無形資産の見積耐用年数は、次のとおりであります。なお、耐用年数を確定できない重要な無形資産はありません。

開発資産	主として5年
ソフトウェア	5年

償却方法、耐用年数及び残存価額は、毎期末日に見直しを行い、必要に応じて改定しております。

(ロ) のれん

のれんは、取得日時点の公正価値で測定される被取得企業のすべての非支配持分の金額を含む移転される対価から、取得した識別可能な資産及び引き受けた負債の取得日における正味の金額を超過した額として認識しております。

のれんについては取得原価から減損損失累計額を控除して測定し、その償却を行わず、原則として最低年一回の減損テストを行っております。

⑤リース

リースは、所有に伴うリスクと経済価値が実質的にすべて当社グループに移転する場合には、ファイナンス・リースに分類し、それ以外の場合にはオペレーティング・リースとして分類しております。

ファイナンス・リース取引においては、リース資産及びリース負債は、リース開始日に算定したリース物件の公正価値と最低リース料総額の現在価値のいずれか低い金額で当初認識しております。

リース料は、利息法に基づき金融費用とリース債務の返済額とに配分し、金融費用は純損益に認識しております。リース資産は、見積耐用年数とリース期間のいずれか短い年数にわたって、定額法で減価償却を行っております。

オペレーティング・リース取引においては、リース料はリース期間にわたって定額法により費用として認識しております。

契約がリースであるか否か、又は契約にリースが含まれているか否かについては、IFRIC（解釈指針）第4号「契約にリースが含まれているか否かの判断」に従い、契約の実質に基づき判断しております。

⑥非金融資産の減損

棚卸資産及び繰延税金資産を除く当社の非金融資産の帳簿価額は、期末日ごとに減損の兆候の有無を判断しております。減損の兆候が存在する場合は、当該資産の回収可能価額に基づく減損テストを実施しております。のれん又は未だ使用可能ではない無形資産については、減損の兆候の有無に関わらず毎年一定の時期に減損テストを実施しております。

減損テスト実施の単位である資金生成単位については、他の資産又は資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。のれんの資金生成単位については、内部管理目的でモニターされている最小の単位となっております。

資産又は資金生成単位の回収可能価額は、使用価値と売却費用控除後の公正価値のうち、いずれか高い金額としております。使用価値の算定において、見積将来キャッシュ・フローは、貨幣の時間的価値及び当該資産の固有のリスクを反映した税引前の割引率を用いて現在価値に割り引いております。

減損損失は、資産又は資金生成単位の帳簿価額が回収可能価額を超過する場合に認識しております。資金生成単位に関連して認識した減損損失は、まずその単位の配分されたのれんの帳簿価額を減額するように配分し、次に当該単位内のその他の資産に対し、各資産の帳簿価額の比に基づき配分しております。

過去の期間に減損損失を認識した資産又は資金生成単位については、減損損失の戻し入れの兆候の有無を判断しております。減損損失の戻し入れの兆候が存在する資産又は資金生成単位については、回収可能価額を見積り、回収可能価額が帳簿価額を上回る場合に減損損失の戻し入れを行っております。減損損失の戻し入れ後の帳簿価額は、減損損失を認識しなかった場合に戻し入れが発生した時点まで減価償却又は償却を続けた場合の帳簿価額を上限としております。なお、のれんについて認識した減損損失は戻し入れをしておりません。

⑦売却目的で保有する資産

継続的使用ではなく、主に売却取引により帳簿価額が回収される非流動資産（又は処分グループ）は、売却目的保有に分類しております。

売却目的保有へ分類されるためには、売却の可能性が非常に高く、現状で直ちに売却が可能なることを条件としており、当社グループの経営者が当該資産の売却計画の実行を確約し、原則として1年以内に売却が完了する予定である場合に限られております。

売却目的保有に分類された非流動資産（又は処分グループ）は、帳簿価額または売却コスト控除後の公正価値のいずれか低い金額で測定しており、売却目的保有に分類された後は減価償却または償却を行っておりません。

(2) 重要な引当金の計上基準

過去の事象の結果として、現在の法的債務又は推定的債務が存在し、当該債務の決済をするために経済的便益をもつ資源の流出が必要となる可能性が高く、その債務の金額を信頼性をもって見積ることができる場合、引当金を認識しております。貨幣の時間的価値が重要な場合には、見積られた将来キャッシュ・フローをその負債に固有のリスクを反映させた割引率で割り引いた現在価値で測定しております。

当社グループにおいて、賃借事務所等に対する原状回復義務に備え、資産除去債務を認識しております。

(3) 従業員給付

①退職給付

当社グループは、従業員の退職給付制度として、確定給付制度と確定拠出制度を採用しております。

確定給付制度に係る負債は、確定給付制度債務の現在価値から、当該債務の決済に用いられる制度資産の公正価値を控除して算定しております。勤務費用及び確定給付負債の純額に係る利息純額は、発生した期における純損益に認識しております。確定給付負債の純額の再測定についてはその他の包括利益に認識し、発生時にその他の資本の構成要素から利益剰余金に振り替えております。また、過去勤務費用は発生時に純損益に認識しております。

確定拠出制度に係る拠出額は、拠出した時点で費用として認識しております。

②短期従業員給付

短期従業員給付は、関連する勤務が提供された時点の費用として認識しております。当社グループが従業員から提供された労働の対価として支払うべき現在の法的又は推定的債務を負っており、その金額を信頼性をもって見積もることができる場合に、支払われると見積もられる額を負債として認識しております。

(4) 外貨換算

①機能通貨及び表示通貨

当社グループの各企業の個別財務諸表は、その企業が事業活動を行う主たる経済環境の通貨（機能通貨）で作成されます。連結計算書類は、当社の機能通貨である日本円で表示しております。

②外貨建取引

外貨建取引は、取引日における直物為替相場又はそれに近似するレートにより機能通貨に換算しております。

各期末日に、外貨建の貨幣項目は、期末日の為替レートで換算しております。公正価値で測定した外貨建非貨幣項目は、公正価値が決定した日の為替レートで換算しております。換算又は決済により生じる為替差損益は、その期間の純損益として認識しております。

取得原価で測定した外貨建非貨幣項目は、取引日の為替レートで換算しております。

③在外営業活動体

在外営業活動体の資産及び負債については期末日の為替レート、収益及び費用については平均為替レートで換算しております。在外営業活動体の財務諸表の換算から生じる為替換算差額はその他の包括利益で認識しております。

(5) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【連結財政状態計算書に関する注記】

1. 担保に供している資産及び担保権によって担保されている債務は、次のとおりであります。

(1) 担保に供している資産

建物及び構築物	265百万円
土地	144百万円
合計	409百万円

(2) 担保権によって担保されている債務

短期借入金	110百万円
-------	--------

2. 営業債権及びその他の債権から直接控除した貸倒引当金はありません。

3. 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額は、次のとおりであります。

83,720百万円

【連結損益計算書に関する注記】

減損損失

資産のグルーピングについては、主に管理会計上の単位である事業分野別に分け、資産の処分や遊休資産においては、個別物件単位でグルーピングを行っております。

当社埼玉研究所及び本社が保有する共用資産の一部について、当社における継続的な営業損失の見通しを踏まえ、当該資金生成単位（資産グループ）の回収可能価額を見直した結果、帳簿価額を下回ることとなったため回収可能価額まで減額し、1,713百万円を減損損失として計上、並びに使用見込みのない固定資産、300百万円についても減損損失として計上しております。また、これらの減損損失2,013百万円は売上原価、並びに販売費及び一般管理費に計上しております。

内訳は、建物及び構築物271百万円、機械装置及び運搬具454百万円、工具、器具及び備品83百万円、建設仮勘定92百万円、ソフトウェア仮勘定1,113百万円であります。

なお、当資産グループの回収可能額は、使用価値により測定しております。使用価値の算定には、税引前加重平均資本コストを基礎とした割引率（7.48%）を使用しております。

【連結持分変動計算書に関する注記】

1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数は、次のとおりであります。

発行済株式数（普通株式）

発行済株式数（自己株式を含む）	24,042,700株
自己株式数	29,280株

2. 配当に関する事項は、次のとおりであります。

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2017年6月23日 定時株主総会	普通株式	336百万円	14円	2017年3月31日	2017年6月26日
2017年10月31日 取締役会	普通株式	384百万円	16円	2017年9月30日	2017年11月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	384百万円	利益剰余金	16円	2018年3月31日	2018年6月27日 予定

【金融商品に関する注記】

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に自動車及び自動車部品の製造及び販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金を主に銀行借入により調達しております。一時的な余資は元本保証であり運用利回りが事前に確定できるものに限定して運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

①信用リスク管理

信用リスクとは、顧客又は金融商品の取引相手が契約上の債務を果たすことができなくなった場合に当社グループが負う財務上の損失リスクであります。

現金及び現金同等物については、その取引先が信用力の高い金融機関のみであることから、信用リスクは限定的であります。

営業債権については、主に親会社である本田技研工業株式会社及びそのグループ会社に対するものであることから、信用リスクが集中しておりますが、同社及びそのグループの信用力は高く限定的であります。なお、当社グループは経理規程に基づいて営業債権について管理しております。

また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、信用度の高い金融機関に限定して取引を行っており、契約不履行になる可能性は僅少であります。

②流動性リスク管理

流動性リスクとは、当社グループが現金又はその他の金融資産により決済する金融負債に関連する債務を履行するにあたり、支払期日にその支払を実行できなくなるリスクであります。

営業債務及びその他の債務、借入金及びその他の金融負債は流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、適時資金計画を作成・更新するとともに、金融機関からの借入枠を維持することなどにより、当該リスクを管理しております。

③為替リスク管理

為替リスクは、当社グループの機能通貨以外の通貨による取引から生じます。当社グループがグローバルに事業を展開していることから外貨建の営業債権が一部生じております。また、営業債務につきましても、原材料等の輸入に伴う外貨建のものが一部生じております。しかしながら、当社グループは各拠点において、原材料や部品の現地調達及び製品の現地販売体制を推進しており、重要な外貨建取引はないことから、為替の変動リスクは僅少であります。

④金利リスク管理

当社グループの借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、金利変動のリスクに晒されております。長期借入金は、主に設備投資に係る資金調達であります。固定金利にて借入を行うことにより、金利変動リスクを回避しております。

⑤市場価格の変動リスク管理

当社グループは、有価証券について、定期的に公正価値や発行体の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案するなど、必要により保有の見直しを図ることとしております。また、把握された公正価値が定期的に取締役会に報告されております。

2. 金融商品の公正価値等に関する事項

2018年3月31日（当期の連結決算日）における連結財政状態計算書計上額、公正価値及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：百万円）

	連結財政状態計算書 計上額（*）	公正価値	差額
現金及び現金同等物	18,929	18,929	—
営業債権及びその他の債権	36,213	36,213	—
その他の金融資産	3,515	3,515	—
営業債務及びその他の債務	(24,685)	(24,685)	—
借入金	(14,725)	(14,733)	(9)
その他の金融負債	(244)	(244)	—

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注）金融商品の公正価値の測定方法

①現金及び現金同等物、営業債権及びその他の債権並びに営業債務及びその他の債務

これらはすべて短期で決済されるため、公正価値は帳簿価額と近似しております。

②その他の金融資産、その他の金融負債

活発な金融市場において取引されている金融商品の公正価値は、市場価格に基づいております。活発な市場が存在しない金融商品の公正価値は、適切な評価技法を使用して測定しております。

③借入金

借入金のうち、短期借入金は短期で決済されるため、公正価値は帳簿価額と近似しております。また長期借入金は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて測定する方法によっております。

【1株当たり情報に関する注記】

- 1株当たり親会社所有者帰属持分 2,457円30銭
- 基本的1株当たり当期利益 199円73銭

【偶発事象に関する注記】

連結子会社であるヤチヨ オブ オンタリオ マニュファクチュアリング インコーポレーテッド（カナダ）は、2014年6月27日に全事業をMatcor-Matsu Group of Companiesへ譲渡しましたが、譲渡対価の一部が未払いとなっていることから、Matcor-Matsu Group of Companiesに対して未払金の支払を求める支払請求訴訟を、2016年6月17日にカナダ国オンタリオ州上級裁判所に提起しました。その後、Matcor-Matsu Group of Companiesより当社及びヤチヨ オブ オンタリオ マニュファクチュアリング インコーポレーテッド（カナダ）に対して、資産購入契約における表明保証違反があったとして、損害賠償金と同契約補償条項に基づく補償金の支払を求める反訴が2016年6月27日に提起され、現在係争中であります。

なお、現時点において上記の訴訟の結果及び終結の時期を予測することは困難であります。

【売却目的で保有する資産に関する注記】

売却目的で保有する資産及び売却目的で保有する資産に直接関連する負債の内訳は次のとおりであります。

(2018年3月31日現在)

売却目的で保有する資産	
現金及び現金同等物	81百万円
営業債権及びその他の債権	2,263百万円
棚卸資産	556百万円
有形固定資産	5,740百万円
その他	596百万円
合計	9,236百万円
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	
営業債務及びその他の債務	1,642百万円
退職給付に係る負債	757百万円
その他	1,012百万円
合計	3,412百万円

当社は、2017年12月18日開催の取締役会において、当社が100%を出資する八千代工業四日市製作所株式会社（以下、四日市製作所）を設立し、当社の完成車事業を吸収分割により四日市製作所に承継させた上で、当社が保有する四日市製作所の全株式を本田技研工業株式会社へ譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

これに伴い当連結会計年度末において、譲渡対象資産及び負債を、売却目的で保有する資産及び売却目的で保有する資産に直接関連する負債にそれぞれ分類しており、2018年4月2日に当社が保有する四日市製作所の全株式を譲渡いたしました。

【非継続事業に関する注記】

【売却目的で保有する資産に関する注記】に記載のとおり、当社グループは完成車事業を終了することから、同事業を非継続事業に分類しております。

非継続事業の業績

非継続事業の損益	
収益	9,353百万円
費用	7,480百万円
非継続事業からの税引前利益	1,873百万円
法人所得税費用（収益）	575百万円
非継続事業からの当期利益	2,448百万円

法人所得税費用は、新設会社である四日市製作所において発生した将来減算一時差異に対する税効果を認識したものであります。

【重要な後発事象に関する注記】

(完成車事業の譲渡)

当社は、2017年12月18日開催の取締役会において、当社が100%を出資する八千代工業四日市製作所株式会社（以下、四日市製作所）を設立し、当社の完成車事業を吸収分割により四日市製作所に承継させた上で、当社が保有する四日市製作所の全株式を本田技研工業株式会社へ譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。これを受け、当社は2018年4月2日に保有する四日市製作所の全株式を譲渡いたしました。

1. 譲渡する相手会社の名称
本田技研工業株式会社
2. 譲渡の時期
2018年4月2日
3. 譲渡する事業の内容、規模及び譲渡する資産・負債の額
 - (1) 譲渡する事業の内容 自動車及び自動車部品の製造及び販売
 - (2) 譲渡する事業の規模 【非継続事業に関する注記】に記載のとおりであります。
 - (3) 譲渡する資産・負債の額 【売却目的で保有する資産に関する注記】に記載のとおりであります。
4. 譲渡価額
6,800百万円

個別注記表

【重要な会計方針】

1. 資産の評価基準及び評価方法
 - (1) 有価証券
 - ①子会社株式及び関連会社株式
総平均法による原価法により評価しております。
 - ②その他有価証券
時価のあるものは、決算日の市場価格等に基づく時価法により評価しております。
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定しております。)
時価のないものは、総平均法による原価法により評価しております。
 - (2) たな卸資産
主として先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により評価しております。また、貯蔵品については、最終取得原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により評価しております。
2. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
定額法を採用しております。
 - (2) 無形固定資産
定額法を採用しております。
 - (3) リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
 - (4) 長期前払費用
均等償却によっております。
3. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金
従業員に対する賞与の支給に充てるため、賞与支払予定額のうち当期に属する支給対象期間に見合う額を計上しております。
 - (3) 役員賞与引当金
役員（常務執行役員を含む）に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理することとしております。

4. 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

前期において「流動資産」の「その他」に含めていた「未収入金」は金額的重要性が増したため、当期より独立掲記しております。なお、前期の「未収入金」は1,788百万円であります。

【貸借対照表注記】

1. 記載金額は、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

2. 有形固定資産の減価償却累計額は、39,549百万円であります。

3. 保証債務は、次のとおりであります。

子会社の銀行借入金等に対する 債務保証額	1,673 百万円
-------------------------	-----------

4. 関係会社に対する金銭債権及び債務は、次のとおりであります。

短期金銭債権	10,137 百万円
長期金銭債権	225 百万円
短期金銭債務	4,749 百万円

【損益計算書注記】

1. 記載金額は、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

2. 関係会社との取引高は、次のとおりであります。

営業取引による取引高	
売上高	69,534 百万円
仕入高	40,223 百万円
営業取引以外の取引による取引高	
営業外収益	3,008 百万円

3. 当期の研究開発費の総額は、4,857百万円であります。

4. 減損損失

資産のグルーピングについては、主に管理会計上の単位である事業分野別に分け、資産の処分や遊休資産においては、個別物件単位でグルーピングを行っております。

当社埼玉研究所及び本社が保有する共用資産の一部について、当社における継続的な営業損失の見通しを踏まえ、当該資金生成単位（資産グループ）の回収可能価額を見直した結果、帳簿価額を下回ることとなったため回収可能価額まで減額し、1,713百万円を減損損失として計上、並びに使用見込みのない固定資産、300百万円についても減損損失として特別損失に計上しております。

内訳は、建物249百万円、構築物22百万円、機械及び装置448百万円、車両運搬具6百万円、工具、器具及び備品83百万円、建設仮勘定92百万円、ソフトウェア仮勘定1,113百万円であります。

なお、当資産グループの回収可能額は、使用価値により測定しております。使用価値の算定には、税引前加重平均資本コストを基礎とした割引率（7.48%）を使用しております。

【株主資本等変動計算書注記】

1. 記載金額は、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

2. 当期末における自己株式の種類及び株式数は、次のとおりであります。

普通株式	29,280株
------	---------

3. 当期変動額の「会社分割による減少」は、2018年3月1日に当社の完成車事業を会社吸収分割により当社が100%を出資する八千代工業四日市製作所株式会社に承継させたことによるものであります。

【税効果会計に関する注記】

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、次のとおりであります。

(1) 繰延税金負債（流動の部）	(単位：百万円)
(繰延税金資産)	
賞与引当金加算額	295
たな卸資産	181
賞与引当金に係る社会保険料加算額	41
その他	21
繰延税金資産小計	538
評価性引当額	△ 538
繰延税金資産合計	—
(繰延税金負債)	
繰延税金負債合計	—
繰延税金負債の純額	—
(2) 繰延税金負債（固定の部）	
(繰延税金資産)	
繰越欠損金	4,129
会社分割による子会社株式調整額	1,913
減価償却超過額	789
関係会社株式評価損	549
退職給付引当金加算額	370
ソフトウェア償却超過額	128
投資有価証券等評価損	55
その他	44
繰延税金資産小計	7,977
評価性引当額	△ 7,977
繰延税金資産合計	—
(繰延税金負債)	
前払年金費用	1,118
圧縮記帳積立金	184
その他有価証券評価差額金	147
その他	0
繰延税金負債合計	1,449
繰延税金負債の純額	1,449

【関連当事者との取引に関する注記】

(1) 親会社

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	本田技研工業株式会社	東京都港区	百万円 86,067	輸送機械器具及び原動機、農機具その他の一般機械器具の製造及び販売	% 被所有 直接 50.4 間接 0.1	当社の製品の販売先及び原材料の購入先	自動車の組立及び部品等の販売 ※1	百万円 61,054	売掛金	百万円 4,401
							原材料の購入 ※2	百万円 39,197	買掛金 未払金	百万円 1,642 1,994

(2) 子会社

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	八千代工業四日市製作所株式会社	三重県四日市市	百万円 9	自動車及び自動車部品の製造及び販売	% 所有 直接 100.0	事業譲渡	事業譲渡 譲渡資産合計 譲渡負債合計	百万円 7,149 1,077	— —	百万円 — —
	ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド	米国オハイオ州マリオン	千米ドル 16,000	自動車部品の製造及び販売	% 所有 直接 100.0	部品及び製造設備の販売先並びに技術援助先 役員の兼任等	部品及び製造設備の販売並びに技術援助	百万円 1,735	売掛金	百万円 919
	八千代工業(武漢)有限公司	中国湖北省武漢市	千米ドル 8,000	自動車部品の製造及び販売	% 所有 直接 100.0	部品及び製造設備の販売先並びに技術援助先 役員の兼任等	部品及び製造設備の販売並びに技術援助	百万円 2,372	売掛金	百万円 1,605
	八千代工業(中山)有限公司	中国広東省中山市	千米ドル 13,000	自動車部品の製造及び販売	% 所有 直接 100.0	部品及び製造設備の販売先並びに技術援助先 役員の兼任等	部品及び製造設備の販売並びに技術援助 配当金の入金等	百万円 1,719 1,690	売掛金 未収入金	百万円 314 1,699
	サイアム ヤチヨカンパニー リミテッド	タイ プラチンブリ県シーマハポート	千タイバート 230,000	自動車部品の製造及び販売	% 所有 直接 100.0	部品及び製造設備の販売先並びに技術援助先 役員の兼任等	配当金の入金等	百万円 1,318	—	百万円 —
	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド	米国オハイオ州コロンバス	千米ドル 48,200	研究開発	% 所有 直接 100.0	委託研究先並びに技術援助先 役員の兼任等	債務保証 ※3	百万円 1,105	—	百万円 —
	ヤチヨ メキシコ マニファクチュアリング エス エー デ シー プイ	メキシコ グアナフアト州セラヤ	千メキシコペソ 240,000	自動車部品の製造及び販売	% 所有 直接 100.0	部品及び製造設備の販売先並びに技術援助先 役員の兼任等	債務保証 ※3	百万円 539	—	百万円 —

取引条件及び取引条件の決定方針等

- ① ※1の当社製品の販売については、市場価格等を勘案して当社希望価格を提示し、交渉の上、価格決定を行っております。
- ② ※2の原材料の購入については、市場価格を参考に交渉の上、価格決定を行っております。
- ③ ※3の債務保証は、銀行借入に対して行っております。

【1 株当たり情報に関する注記】

- 1 株当たり純資産額 1,138円87銭
- 2 1 株当たり当期純損失 △49円45銭

【企業結合等に関する注記】

共通支配下の取引

当社は、2017年12月18日開催の取締役会の決議に基づき、当社が100%を出資する八千代工業四日市製作所株式会社（以下、四日市製作所）を設立し、当社の完成車事業を吸収分割により四日市製作所に承継いたしました。

1. 重要な会社分割

(1) 会社分割する事業の内容

自動車及び自動車部品の製造及び販売

(2) 会社分割の形態

当社を吸収分割会社とし、四日市製作所を吸収分割承継会社とする吸収分割であります。

(3) 会社分割の時期

2018年3月1日

(4) 分割する資産、負債の項目及び金額（2018年3月1日現在）

資産		負債	
項目	帳簿価額	項目	帳簿価額
流動資産	751百万円	流動負債	78百万円
固定資産	6,398百万円	固定負債	999百万円
合計	7,149百万円	合計	1,077百万円

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

なお、分割する資産及び負債の純額（6,072百万円）については、当社のその他利益剰余金（繰越利益剰余金）の額の減少として処理しております。

【重要な後発事象に関する注記】

(子会社株式の譲渡及びその他利益剰余金の額の増加)

当社は、2017年12月18日開催の取締役会において、当社が100%を出資する八千代工業四日市製作所株式会社（以下、四日市製作所）を設立し、当社の完成車事業を吸収分割により、四日市製作所に承継させた上で、当社が保有する四日市製作所の全株式を本田技研工業株式会社へ譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。これを受け、当社は2018年4月2日に保有する四日市製作所の全株式を譲渡いたしました。

1. 売却する相手会社の名称
本田技研工業株式会社
2. 譲渡の時期
2018年4月2日
3. 当該子会社の名称、事業内容
子会社の名称 : 八千代工業四日市製作所株式会社
事業内容 : 自動車及び自動車部品の製造及び販売
4. 譲渡株式数及び譲渡前後の所有株式状況
譲渡前の所有株式数 9株（所有割合：100%）
譲渡株式数 9株（所有割合：100%）
譲渡後の所有株式数 0株（所有割合：0%）
5. 株式の譲渡価額
6,800百万円

【企業結合等に関する注記】に記載のとおり、当社は2018年3月1日に当社完成車事業を吸収分割により当社が100%を出資する八千代工業四日市製作所株式会社（以下、四日市製作所）に承継させ、分割する資産及び負債の純額6,072百万円を当社のその他利益剰余金（繰越利益剰余金）から減少させております。2018年4月2日に実施した当社が保有する四日市製作所株式会社の本田技研工業株式会社への譲渡にかかる株式譲渡損益の算定に当たっては、これらの取引が1つの事業譲渡取引を構成していることに鑑み、2018年3月1日に実施した完成車事業の吸収分割に伴い減少させたその他利益剰余金の額と同額をその他利益剰余金（繰越利益剰余金）の戻入（増加）として処理し、当該金額及び四日市製作所株式の簿価を株式譲渡価額から差引いた金額を基に算定することを予定しております。